

低学年期と高学年期の伸ばし方

2019年 花まる学習会/スクールFC 仁木 耕平

1. はじめに … 前提のような話

① 一人一人、できることは違う

② イラショナル・ビリーフ

- 自分より圧倒的に力がある子たちの集団にあえて入れることで、危機感が生まれ、それによって成長する。
- 「自分はできないんだ」という自覚は必要。それによって、このままではまずいと思える。
- 漢字や知識事項の暗記は、努力さえすれば完璧にできるものだ。
- 高い目標を設定しないと、人は易きに流れてしまう。
- 子どもにまとまった自由な時間を与えても、ただだと無価値な時間を過ごすだけである。
- 自分よりできる他人を見ても何とも思わない子は、危機感が足りないので成長しない。

③ 挑戦と成長

1) チャレンジをめぐる、3つの諸相

コンフォート・ゾーン (Cゾーン)

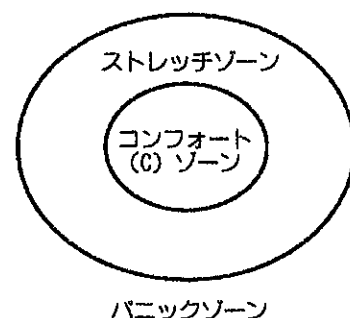
- ・自分が安心して物事を考えたり、行動したりできる場や空間
- ・親友・家族など、自分にとってリスクを負う危険がない人や場にあります。
- ・安心して活動ができる反面、新しいものとの出会いが少ないため、成長があまり見られません。現状維持・満足で終わってしまいます。

ストレッチ・ゾーン

- ・チャレンジの場所。
- ・Cゾーンから一歩飛び出すことで、新しい価値観やモノに出会うことができます。
- ・ただし、慣れない人や場に出くわしたり、未知のものに挑戦したりしなければならぬために、不安に襲われたり、しり込みをしてしまうことがあります。

パニック・ゾーン

- ・ここでは人は、不安と恐怖で何も手につきません。
- ・どうしたらよいのかさっぱりわからないという状態になり、早くCゾーンに戻りたいと願ってしまいます。
- ・ここでは、学びはほとんど起こりません。



2) チャレンジが学びや成長を生む「条件」

- ・「Cゾーンからストレッチゾーンへ、自己決定により飛び出していく」ときに、もっともよい学びが生まれます (チャレンジバイチョイス)。けれども、Cゾーンからストレッチゾーンへ行くには、かなりの勇気や決断、挑

戦が必要になり、ストレスが大きくなる場合があります。

- ・それを一番支えてくれるものが、「自身のCゾーン」です。Cゾーンがしっかりしているからこそ、安心してチャレンジをすることができたり、戻ることもできたりします。

(協力的・信頼的環境、グループや家族の力が支えになる)

- ・チャレンジは(本来)すべて自分の意思決定により行われるものです。
- ・強制されて行ったチャレンジで成功しても、気づきや学びは生まれにくいものです。
- ・失敗が学びになるのは、自らの意思でチャレンジしたときのみです。
- ・自己決定によるチャレンジが、馬鹿にされたり軽視されたりすることがないようにする必要があります。
- ・強制されて行ったチャレンジで成功しても、気づきや学びは生まれにくいものです。ましてや失敗してしまったら、もう二度とCゾーンから出てチャレンジすることはなくなるでしょう。残るのは後悔だけです。

④ 目標設定をするうえで大切なこと

- ・達成可能な目標であること
- ・測定可能な目標であること
- ・具体的に見えるかたちであること
- ・達成することに価値があること(本人にとっても)

2. 低学年期について

① 工夫する力、試行錯誤する力

- ・間違ってしまったときの、周囲の反応
- ・効率のよくないやり方を選んだとき

② イメージをする力

- ・「イメージをする」とは
今目の前にないものを思い描く。頭の中に「映像を立ち上げ」「保持し」「操作する」。
- ・実体験の量

③ 少しずつ、その子が自分でやれることを増やしていこうという接し方(スタンス)

- ・その時点でどれだけのことが自分でできるかが、人と違ってよい
- ・時間がないから、やってあげるしかないことも多い…OK!
- ・自分でできることに、価値があるんだな!と当人が思っていることが大切(今はできなくても)
(自分でできるように伝える、新しいことが自分でできるようになったら大いに喜び、認めてあげたい)
本来なら待ってあげたいな、と思っていれば十分だと思います。余裕のある時には挑戦させたいものです。

※片付けだけは別……

④ 教科間の比較

- ・「算数はできるけど、国語がねえ……」
- ・物事の認識の仕方、思考の方法が違う

⑤ 要求したとして、できるという前提でない方がいいこと

3. 高学年期について

① さまざまな変化と自己主張

- ・(たとえば) 習い事をやめたい、みたいな話が出てくる
- ・ほんと、外づらはいいんですよね……
- ・自己像 ⇄ 現実
- ・書くことの意味・効用

② 時間の使い方をめぐって

- ・「漢字が苦手です」「完璧になるまでやれないんです。詰めが甘い」
「基本レベルのことから、一向に詰み上がりません」
- ・「論説文が苦手です。頭に入ってこないし、楽しめない」
- ・オーバーワークの最大の代償は「ベルトコンベアー状態」をつくりだしてしまうこと

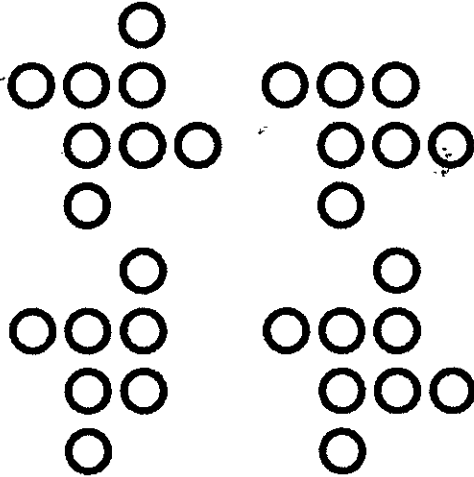
③ 承認

- ・外から要求されることのレベルが上がってくる
- ・言われたいこと、言われたくないこと … 何が彼らをやる気にさせるか

4. おわりに

- ・何をいつ始めても、遅すぎることはない
- ・いつでも大切なのは、「Cゾーンの確保」
- ・「自由に、生きたいように生きる」
→自分がどう生きたいか、ありき。
自分がどういう価値観をもっていて、どう生きていきたいのか。

○ はいくつ？



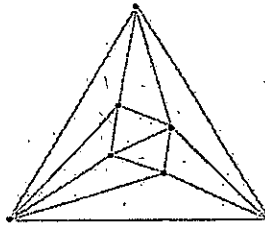
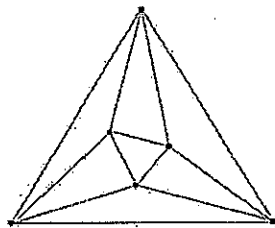
[2] 正多角形の内側にいくつか点があるとき、正多角形の頂点やこれらの点をまっすぐな線で結び、正多角形の内側をできるだけ多くの三角形に分割します。ただし、頂点や内側の点を結ぶ線は交わってはいけません。また、内側の点が3個以上一直線に並ぶことはありません。

正三角形の内側にいくつか点があるとき、たとえば図のように三角形に分割できます。

なお例1では、内側にできた三角形の個数は7個です。

例1. 正三角形と3点

例2. 正三角形と4点



次の問いに答えなさい。

(1) 次のそれぞれの場合で、内側にできる三角形の個数を求めなさい。

(ア) 正方形と4点

(イ) 正五角形と5点

(2) 正2016角形と28個の点のとき、内側にできる三角形の個数を求めなさい。